

◎ 今月のトピック

◆「第2回うつくしま農林水産まつり」が開催

10月22日から24日にかけて、郡山市のビックパレットふくしまにおいて「第2回うつくしま農林水産まつり」が盛大に開催されました。

当事務所からは、「南会津の農林業とグリーン・ツーリズム」と題して、管内の農林業とグリーン・ツーリズムを紹介したパネル展示と、南会津の農林業をよりよく理解してもらうためにクイズを行いました。回答者にはもれなく南会津の特産物をプレゼントするというので、15間にも及ぶ難しいクイズにもかかわらず、1日300名に限定した回答用紙はすぐになくなるほどの盛況ぶりで、参考になったとの声が多くありました。また、猿樂そばや会津地鶏の焼き鳥、そばやきもち、しんごろう、山菜の加工品などの特産物を販売し大変好評でした。

地域の伝承文化を紹介するコーナーでは、当地方から只見町の小林早乙女踊りを出展し、衣装の展示やビデオ放映などで紹介しました。

なお、クイズの回答者900名の中から、全問正解した453名のうち厳正な抽選のうえ、須賀川市在住の女性ほか2名の方に南会津の銘酒4銘柄セットを先日送付しました。



クイズで南会津をPR

◆第3回JAグリーン・ツーリズム研究集会在館岩村で開催されました

10月14日から15日に、全国からグリーン・ツーリズムに取り組んでいるJA職員などが館岩村に集まり、2日間の研修会が開催されました。

初日は、南会津農林事務所長らによる来賓の挨拶の後、各講師によってグリーン・ツーリズムに

関する報告などが発表されました。また、体験実習として、館岩村体験民宿の会がインストラクターとなった「リース作り」も行われました。

2日目には、当管内のグリーン・ツーリズムの取り組みとして、南会津の特徴や協議会の現状などについて、当事務所により発表しました。

最後には、少ない時間ながら全体の討論会がもたれて、活発な意見交換が行われました。



研究集會での全体討議

◆「野生きのこ鑑定会」が開催されました

10月11日只見町青少年旅行村「いこいの森」において、「野生きのこの鑑定会」が開催されました。「緑と水の源泉地域」推進協議会の主催で行われたもので、昨年が続いての開催となりました。参加者は25名ほどでした。

当日は天候に恵まれ、きのこ採集に公園内の森林を歩くだけで汗ばむような陽気となりました。

採集されたきのこは、芝生の上の鑑定会場にて「名前」とその「食・毒」などが係員により説明されましたが、種類は40種以上になりました。

参加した小学生の女の子は、おいしい「シヤカシメジ」をゲット、大満足でした。

また、10月27日には田島町藤生地区において、同地区主催で行われました。30種類ほどが鑑定された後、採集されたきのこは早速「きのこ鍋」となり「味の鑑定会」となりました。



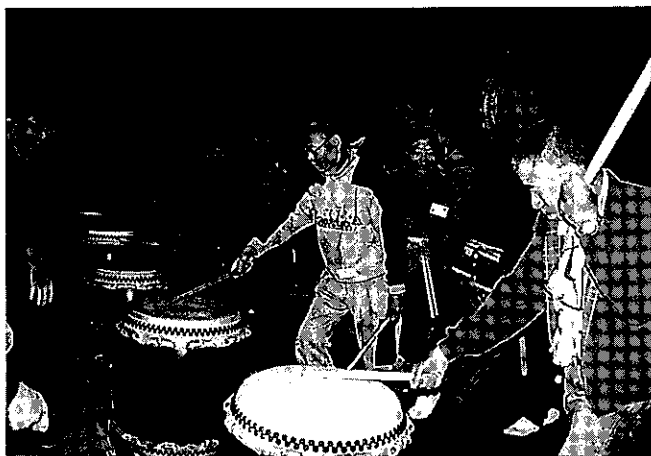
「採取されたきのこの鑑定会風景」(只見町)

◆南会津グリーン・ツーリズムモニターツアー伊南コースが実施されました

伊南村グリーン・ツーリズム推進協議会が中心となり10月22日から24日にかけてグリーン・ツーリズムモニターツアーが伊南村において実施されました。

首都圏などから23人が参加し、村内散策や温泉体験、村イベント参加など、村民とのふれあいをメインに行われました。

2日目には、ローテーションメニューとして、絵はがきの作成、収穫体験(栗ひろい、キノコ狩り)、農機具試乗体験を、班ごとに分かれ専門のインストラクターの指導のもとで行いましたが、参加者たちは紅葉で美しい景色の伊南村を堪能していました。



久川太鼓体験をする参加者たち

◆林業教室(基礎講座)を開催しました

10月15日に、平成11年度林業教室の現地研修を館岩村ほか2町村で行いました。

当日は、初めに館岩村で複層林を見学し、続いて伊南村で広葉樹林の整備地見学をした後、田島町の株式会社芳賀沼製作にて、普及指導協力員の芳賀沼養一さんから「ヨーロッパとカナダの林業」

というテーマで、機械化された木材生産状況に関する講義を受けました。研修生たちは、日本の森林とスケールが違うことに驚き、外材との競争が激化する中で日本の林業の厳しい前途に気を引き締めていました。



真剣に講義を受ける研修生

◆「先生の森林・林業体験」研修が行われました

9月29日と10月12日に、館岩村「しらかば公園」・田島町「針生の町有林」において、管内の小中学校の先生9名の参加による「社会貢献活動体験研修」が行われました。

1日目は「森林の役割・林業作業の基礎知識」等の講義の後、「森林観察・野生きのこ教室」を行い、2日目には実際に林業作業体験として「下刈り・枝打ち」を、汗を流して実施しました。

普段、森林林業には関わりの少ない先生たちも、今回の体験を通して理解を深めたとのことで、学校の生徒たちにも自分の体験から、森林林業を教えてあげられると喜んでいました。

なお、この研修は「国民参加の森林づくり」としても、位置づけをしています。



参加した先生たち

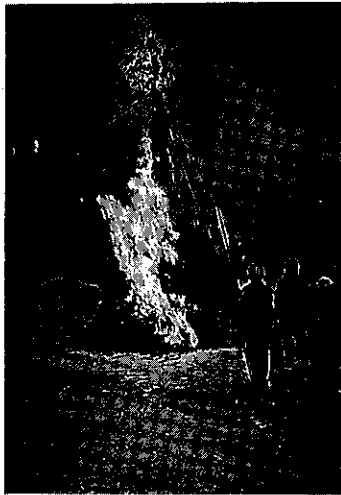
手入れの終わった山で・・・



◆ふるさと水と土ふれあい活動コンクールで「和泉会」が受賞

「第2回うつくしま農林水産まつり」関連イベントにおいて実施された「ふるさと水と土ふれあい活動コンクール」で農地などの保全活動に功績のあった和泉会が奨励賞を受賞しました。同会は、南郷村和泉田地区の親睦と発展のため「歳いずみの神」

を開催し、また、準備作業として秋期に遊休農地を有効活用するためにあえて「はで」を作るなど、昔ながらの稲作風景の保存に努めていることが認められ、農林まつり多目的ホール特設ステージにおいて農林水産部長より表彰されました。



冬の風物詩「歳いずみの神」



「はで」、歳いずみの神に使用するワラの確保と昔ながらの稲作風景の保存

★地域紹介コーナー

・・・田島町・・・

「水無川流域環境保全事業」

～防霜対策に利用した古タイヤ処理について～

農林課長 阿久津嘉彦

自然のきれいな生活環境を守るために、それぞれの法律が制定され、農業経営でも「廃棄物の処分及び清掃に関する法律」により農家も農業用使用済みプラスチック類を自らの責任において処理しなければならなくなり、平成12年4月からはごみの分別収集が開始されるなどごみ処理に対する取り組みが厳しくなっております。

田島町を南北に流れる水無川流域は、昭和43年から53年にかけて、水無川開拓パイロット事業により農地の造成が行われ、主に桑園、ワイン用ブドウが植栽されましたが山間地の気象条件の中で、毎年凍霜害に遭うため、防霜対策の最も有効な方法として、古タイヤを燃やしておりました。当時は、古タイヤをいかに大量にストックするかが農家としての対策の工夫だったと思います。

しかし、その後「まゆの価格の低迷やぶどうの病気の発生」により、栽培面積の減少や、離農等により耕作放棄地が拡大し、更に環境汚染につながるということで燃やすことができず、古タイヤの野積みのり積みが更に古タイヤの不法投棄を招き、ついには2万本のタイヤが放置される状態となりました。



野積みされた古タイヤ

現在は少ないブドウ栽培者と、アスパラガスや花き等へ転換したものの外、耕作放棄の荒廃地を畑に戻してそば等が栽培されております。

水無川流域から古タイヤが除去され不法投棄や火災等の問題がなくなり、きれいに再生された農地で営農できるよう、モデルケースとして、県(南会津地方振興局商工県民部、南会津農林事務所農業振興部)、町、田島警察署、JA会津みなみ、地権者、耕作者等により「水無川流域環境保全推進協議会」が設立され、放置タイヤを撤去して、

更にその後「花いっぱい事業」が実施されております。

経費は、県の地域づくりサポート事業補助、町補助、JA会津みなみと地権者の負担が当てられております。古タイヤは、処分業者により埼玉県のセメント会社に運ばれ、セメント製造過程の燃料として利用されることとなります。

来春には、古タイヤが除かれた水無川流域で、

きれいな花が咲く環境の中での営農がみられることとなります。



★この人を知りたい

「グリーンツーリズムの牽引役として」

けんいん
館岩村高杖原 木下 武司さん

会津高原館岩村グリーン・ツーリズム推進協議会の会長として、9月にモニターツアーを実施した木下さんは、館岩村の体験民宿5件が集まって組織した「体験民宿の会」においても独自の体験ツアーを実施するための企画やチラシ作成などグリーン・ツーリズム活動の中心となっています。

また、ほかにも伝承会体験コース設定部長、観光協会誘客宣伝部長、体育協会副会長、村教育委員・・・など数々の役を勤めています。「暇だからいろいろ任されてしまう」と謙遜される木下さんですが、友好都市のイベントに参加して館岩村のPR活動をするなど多忙な日々を送られています。

現在のペンション「大きな栗の木」を経営することになったのは、館岩村の体験イベントのチラシを見たことがしたきっかけだそうで、冬に館岩村を視察に来て秋にはペンションが建っていたというほど決断が早く実行力のあるところは、先駆的にグリーン・ツーリズムを経営に取り入れているところからも見て取れます。

現在、木下さんはリース作り、石を使った工作などの体験インストラクターとしても活躍していますが、来年の4月にオープンする予定の「会津高原おもしろ体験館」でインストラクターとして、ボランティア活動する事になっています。体験館では、「リースづくり体験、米の絵作り、唐人凧などの体験を子供から大人までできるようなとこ

ろにしたい。村の人が気軽に遊びに来られ、学校の工作教室などにも利用できるようなになれば・・・」とは話してくれました。

また、「村には工芸のうまい年寄りがたくさんいる。その作品を展示して、販売できれば村と人の活性化につながる」とも。

夢は？という問いには「一緒に遊び、楽しむこと」とのこと。ペンションの名前の由来「♪大きな栗の木の下で・・・♪」の童謡のようにほのぼのとした温かい夢のように思われました。グリーン・ツーリズムの基本理念にある「都市住民とのふれあい」は、一方的な押し付けでなく一緒になって楽しむという木下さんの考え方が本当の姿であると教えられました。



「会津高原おもしろ体験館」にて

特集！ 認定農業者制度について

「認定農業者」という言葉を聞いたことがあるかと思えます。そもそも認定農業者とはどんな人なのか、どういう制度になっているのか、よくは知られていないようです。

では何故、認定農業者という制度がつけられたのでしょうか。

● 深刻化する担い手不足

農林水産省は、平成4年に「新しい食料・農業

・農村政策の方向（新政策）」を取りまとめました。

背景には、わが国の食料自給率の低下や農業就業人口の減少など、農業をとりまく状況が大きく変化してきていることがあります。

日本の食料自給率は、カロリーベースで41%と、先進国では異例に低い水準にまで低下しています。国際的には、地球環境問題をはじめとする異常気象や、開発途上国の爆発的人口の増加など、深刻な食料不足の発生も危惧されています。

このようななかで、今後も国民に安定的に食料を供給するため、農業技術の革新による安全で低コストの農作物の生産や、農地の基盤整備、水資源の確保などが求められていますが、その生産を担う農業者を確保することが、最も重要であることは言うまでもありません。

しかし、より安定した所得を得られる他産業への就業や高齢化などにより、農業従事者は年々減少しているため、農業の担い手を確保することは大きな課題となっています。

● 高い所得・短い労働時間をめざして

このため、農業を魅力ありやりがいのある職業として選択できるよう、他産業なみの生涯所得と年間労働時間を目標とした作物別の経営スタイルを提示しています。福島県の場合は1経営体当たり710万円以上、1人当たり2,000時間を目標

にしています。これらの経営スタイルを参考に、農業者自らが5年後を目標とした経営改善計画を作成し、この計画が妥当であると市町村長に認定された農業者（法人も含む）を認定農業者と呼んでいます。

国では、認定農業者などの安定した農業経営体、農業生産の相当部分（6割程度）を担うことを目標としており、市町村農業経営改善支援センターでは、農地の利用集積や融資など経営改善の支援をおこなっています。

現在南会津管内では、152名（法人4を含む）の認定農業者が活躍しており、さらなる拡大をめざしています。



認定農業者座談会の様子（田島町）

～研修会・講習会のお知らせ～

農業短期大学校・会津農業センター研修

内 容	日 時	場 所
①稲作コース（公開講座） 「水田土壌の改善ポイントと土作り肥料」 「成分分析値による米の成分分析の仕組みと食味」	11/16	会津農業センター
②農業機械研修「無人ヘリ操作基本」	11/16～19	農業短期大学校内
③農業機械研修「アーク溶接基本」	11/18～19	農業短期大学校内
④花きコース（公開講座） 「土作りと切り花品質」 「良質堆肥の作り方」	11/26	会津農業センター
⑤農業機械研修「トラクタ効率利用」	11/29～12/2	農業短期大学校内
⑥畜産課題研修「黒毛和種の肥育期間短縮」	12/2	農業短期大学校内

※お申込み・お問合せ先：南会津地域農業改良普及センター TEL 0241-62-5262



～2000年世界農林業センサス実施のお知らせ～

農林水産省では、平成12年2月1日に「2000年世界農林業センサス」を実施します。農林業センサスは、全国の農家や林家など、すべての農林業を営む事業体を対象として行う極めて大規模な調査で、いわば「農林業に関する国勢調査」ともいえる調査です。

調査結果は、農林業の実態を明らかにし、国をはじめ、各方面で広く利用できる総合的な統計資料として利用されます。

調査に当たっては、調査員が持参する調査票に、農林業の経営状況などを記入していただきますが、調査で得られました個人情報、統計を作成する目的以外に使用いたしませんので、ありのままをご記入していただきますようお願いいたします。

農林水産省・福島県

窓

のりと 祝詞

10月某日、九州は太宰府天満宮に参拝す。その折り、神主を訪ね、我、幼少のみぎり、学問の神様である菅原道真公を敬い、毎年“天神講”あり。その時、祝詞なるものを唱え、覚えないと、御神酒や御馳走が頂けないため、真剣に暗唱せり。『ナムテンマン ダイジダイテンジン オンドウオンドウ シンジンソワカ ワレタノムヒトヲ ムナシクナスナラバ アメガシタニテ ナゴヤナガサン』と……。当時の同級生の誰もが覚えてない、わからないため、ついでに、その全文と、たぶん漢字でしょうが、掛け軸などありましたらば……。と問うに、

答えて曰く「全国1,500余りの天満宮、菅原神社、天神様、それぞれの神主に祝詞など任せであるので……。？」素っ気なし。

全国の天満宮の本社がこれでは学問の神様もさぞやお嘆きであろうに。

ガイドも曰く「神は、紙（紙幣）が好きですよ」と……。やはり商売優先か。小生、お賽銭は二重の幸と20円で済ます。御利益有りや。

どなたか、正式な祝詞をお教え下さい。

所長 横田

3ヶ月予報

仙台管区气象台発表の「東北地方3ヶ月予報」

- 11月 天気は周期的に変化するでしょう。平年と同様に、東北日本海側ではくもりや雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多い見込みです。
- 12月 平年と同様に、東北日本海側ではくもりや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
- 1月 東北日本海側では平年に比べくもりや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

お問い合わせ

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。
郵便・FAXどちらでも結構です。

あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所企画部 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349

◎ この広報誌は再生紙を使用しております